

エネルギー情勢懇談会

第2回に向けて

枝廣淳子

資料の内容

【ご報告】

情報発信と対話の場を立ち上げました

【論点】

今回から事務局の準備した論点に沿って各分野の専門家からのインプットと議論を進めつつ、さらに議論すべき追加の論点（今回は4点）

情報発信と対話のためのサイト立ち上げました

<https://www.es-inc.jp/energysituation/>

エダヒロの「エネルギー情勢懇談会」レポ!

検索ワードを入力



「エネルギー情勢懇談会」とは

各回のレポ!

データを読む

論点整理・ご意見募集

関連情報

What's New

第1回エネルギー情勢懇談会

配付資料1「エネルギー情勢を
巡る状況変化」より
エダヒロのピックアップ解説

http://www.enecho.meti.go.jp/committee/studygroup/ene_situation/001/pdf/001_005.pdf

第1回 配布資料より：エダヒロのピックアップ解説（音声付き）

2017年09月25日 【各回のレポ!】



第1回【エダヒロの振り返り】印象に残った発言と考えたこと

2017年09月19日 【各回のレポ!】



2050年の日本のエネルギーを考える、10の論点が提示されました

2017年09月19日 【論点整理・ご意見募集】

各回のレポ！

第1回エネルギー情勢懇談会

配付資料1「エネルギー情勢を
巡る状況変化」より
エダヒロのピックアップ解説

http://www.enecho.meti.go.jp/committee/studygroup/ene_situation/001/pdf/001_005.pdf

2017年09月25日 [配布資料の音声解説](#)

第1回 配布資料より：エダヒロのピックアップ解説（音声付き）



2017年09月19日 [エダヒロの振り返り](#)

第1回【エダヒロの振り返り】印象に残った発言と考えたこと



2017年09月07日 [参加レポ！](#)

第1回の会合に参加（8月30日開催）

カテゴリー

- [エダヒロの振り返り](#)
- [参加レポ！](#)
- [配布資料の音声解説](#)

年別アーカイブ

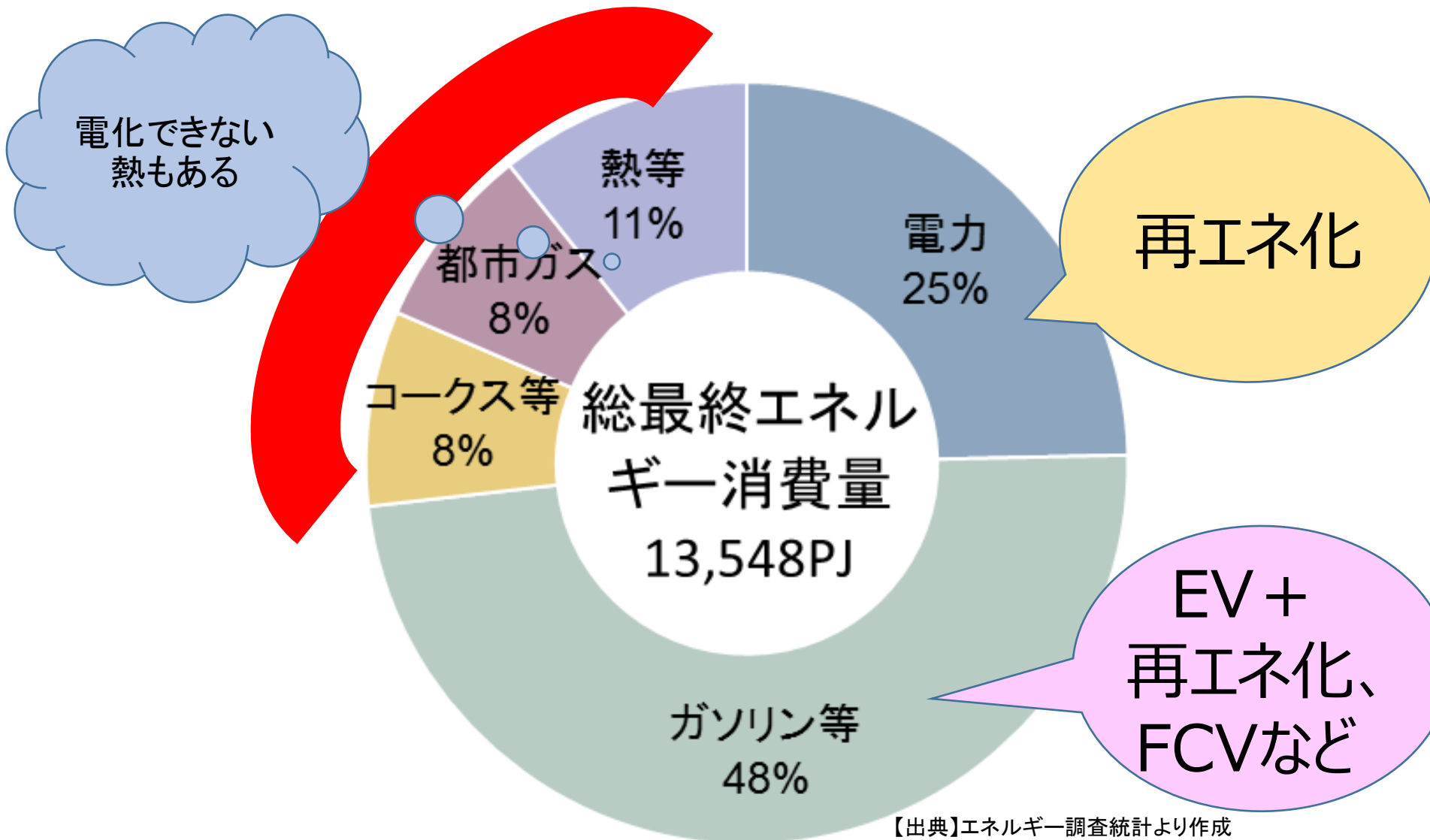
- [2017年](#)

事務局からの論点に加えて
この懇談会で議論すべきこと
(今回は4点)

①電力(25%)以外のエネルギーの議論も必要

4割を占める「熱」をどう考えるのか？

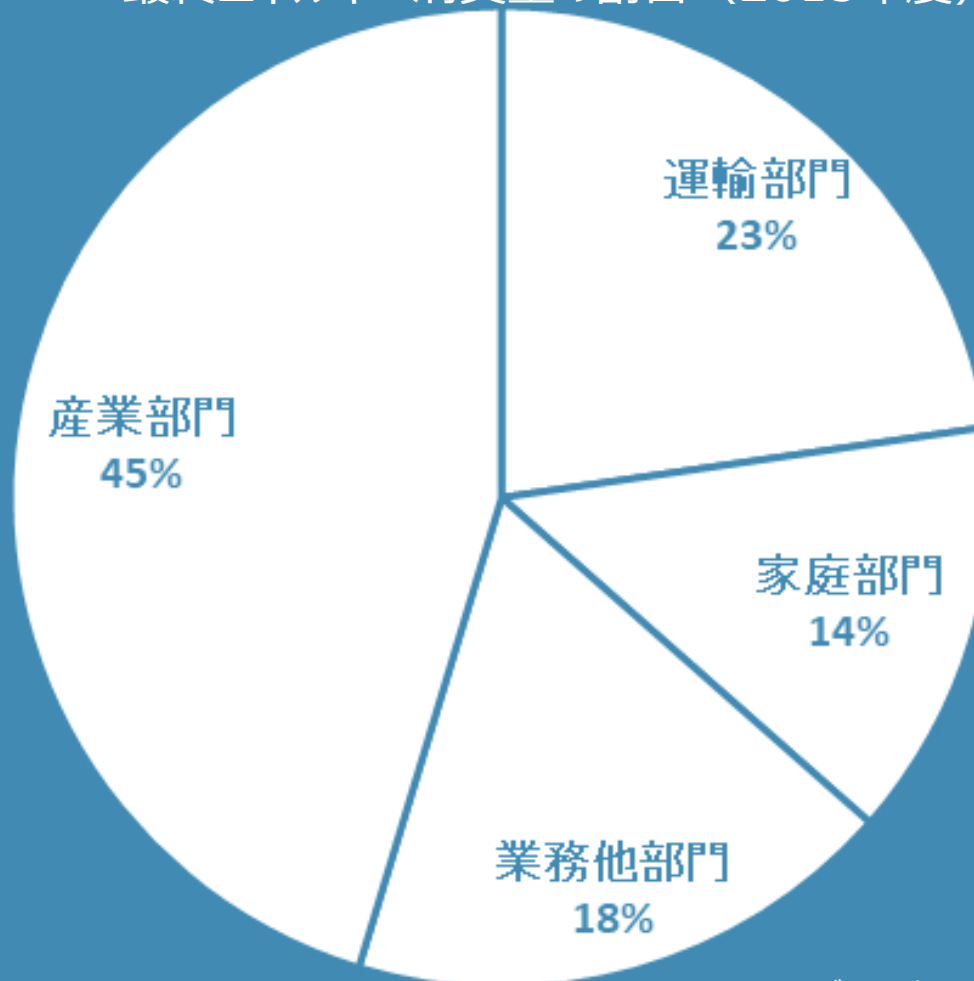
日本の総最終エネルギー消費量の内訳（2015年度）



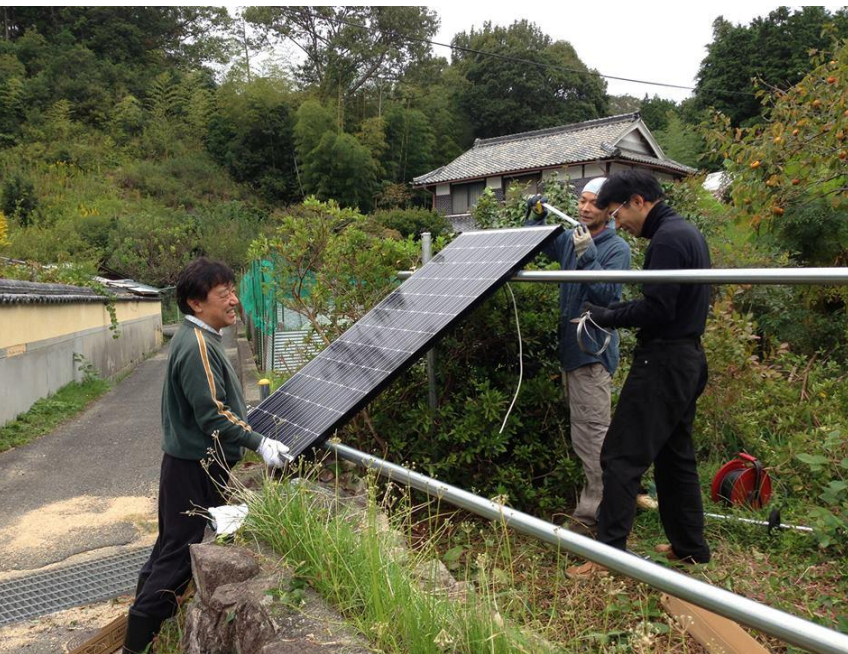
②個人・地域の視点からの
エネルギーの議論が必要

大量・安定・安価な電力が必要な産業用と、 家庭用を分けて考える

最終エネルギー消費量の割合（2015年度）



個人・地域のエネルギー自立化



パーソナルエネルギー
6kw出力18kwh容量



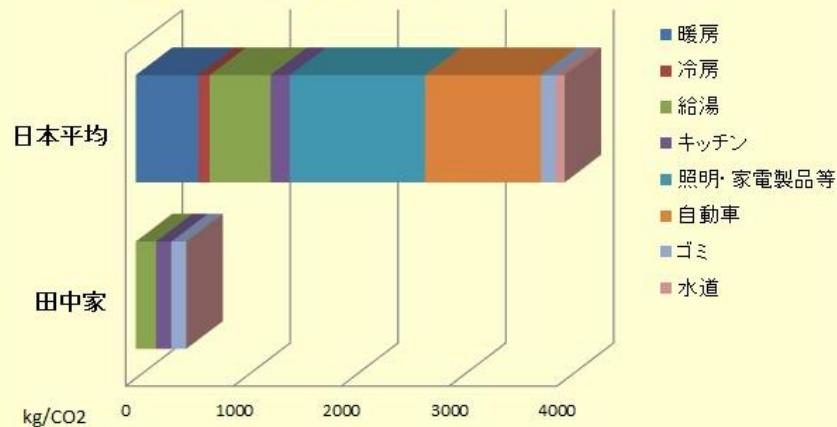
オフグリッド化



発電量と
残量を見ながら
電気を使う

「快適ですよ！
何の問題も
ありません」

二酸化炭素排出量の差(マイナス89%達成)

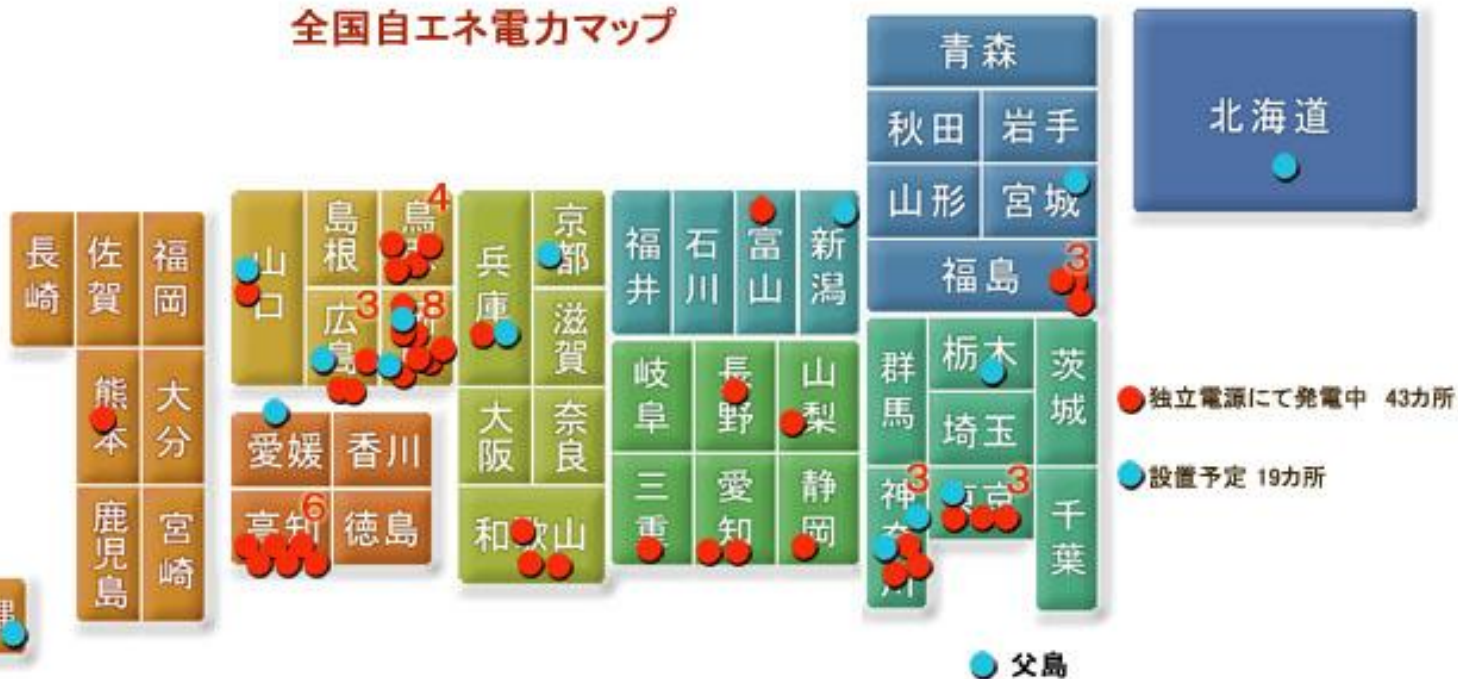


個人のエネルギー自立をどう進めるか

全国自エネ電力マップ



<http://jiene.net>



● 父島

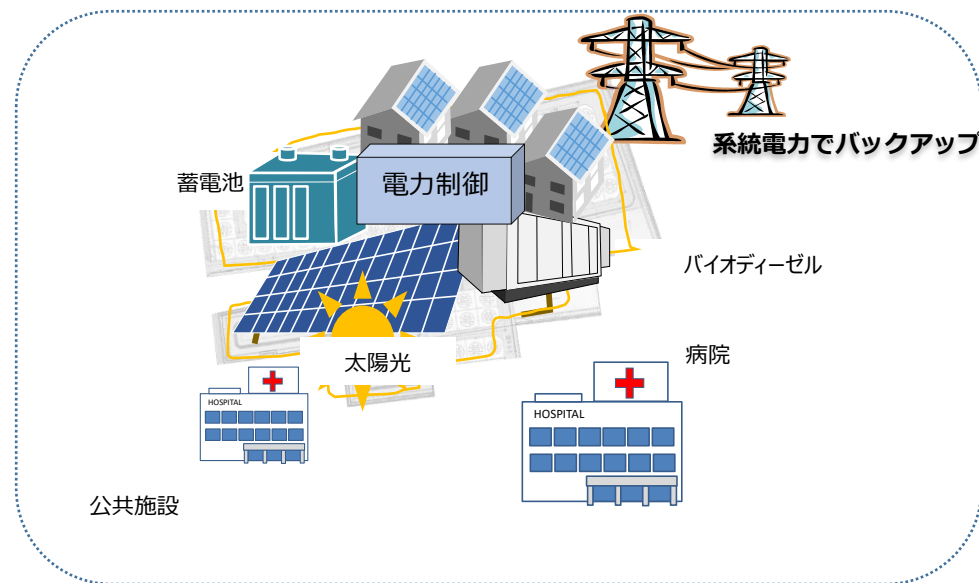
地域のエネルギー自給 ＝地域経済・レジリエンス向上

- 鹿児島県屋久島（人口約1万3千）：本土と送電線が繋がっていない
 - ・ 民間事業者が水力発電事業を行い、送電と小売りを担当するグループがエリアごとに4つあり、地域ごとの配電組合が独自の運営を行っている
- 長崎県壱岐島（人口3万弱）：本土と送電線が繋がっていない
 - ・ 経産省の実証事業始まる
 - ・ 島内のメガソーラー→EVの電源として使うとともに
 - ・ EVを蓄電池として使う→島内の電力全量を再エネ可も

地域内でのエネルギー融通による エネ自給率アップへ

論点の1つに位置づけ、専門家を招聘して議論させてほしい（技術や制度など）

- 地域にとって：本当の意味での地方創生
- 事業者にとって：新しいビジネスチャンス



③再エネの可能性とコストについての検証が必要

日本はもはや再エネ後進国ではない！

2016年5月4日のピークの1時間(12～13時)

日本全体の電力需要のうち、

再エネがまかなったのは **45.7%**

四国電力：79%

九州電力：77%

北海道電力：71%弱

東北電力：62%弱

5月4日の1日間：**27.5%**

5月の1ヶ月：**20%**

2016年度の1年間：**13.8%**

多くの人も知りたい

再エネでいける！ vs 再エネ限定論

第1回情勢懇でのご発言

- ◆「今の再エネは、とてもじゃないけれども、代替エネルギーになりそうにない」
- ◆「再生エネルギーの持つ制約要因もたくさんあると思うが」
- ◆「再生可能エネルギーについてはシステムの安定化、コスト低減、蓄電池、新技術の開発が重要」

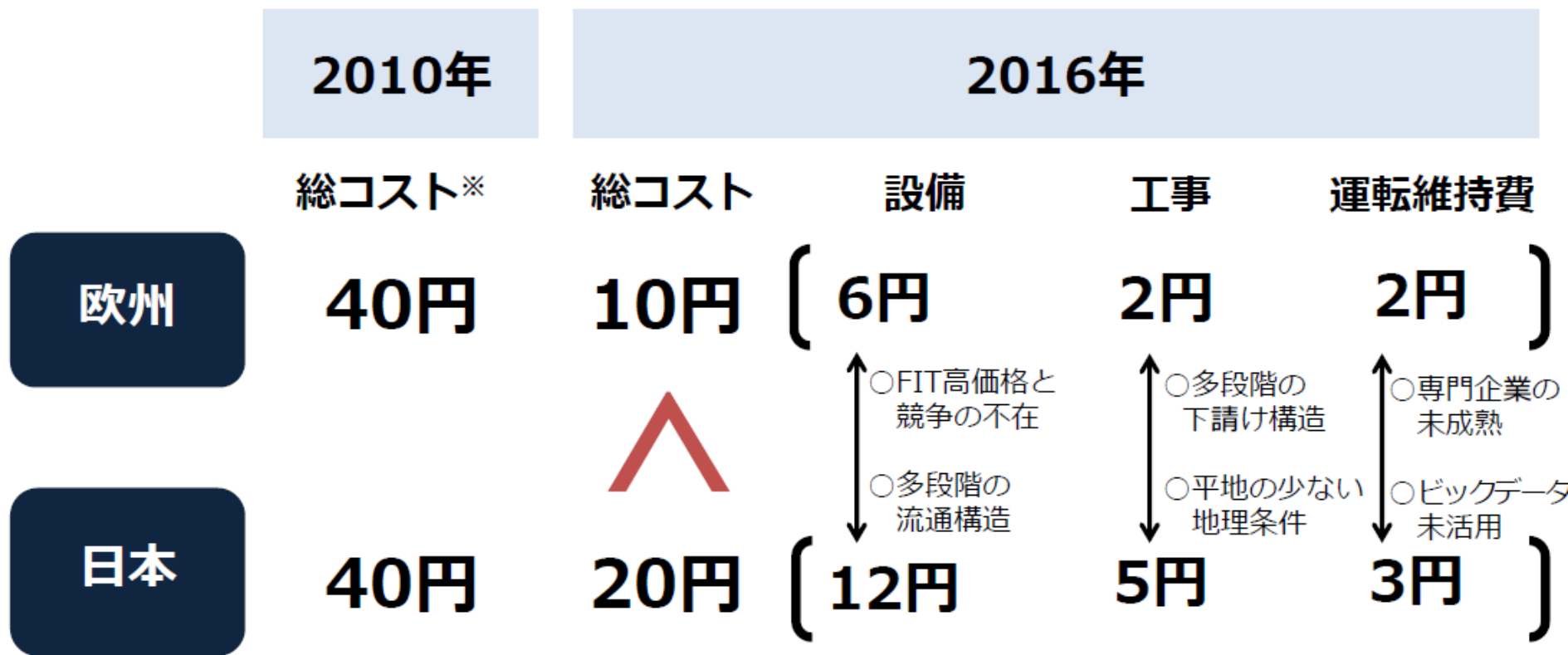
など

日本には再エネ技術はあるのに、なぜ???

- 日本には、RE100企業がどんどん生まれえないのか？
- 再エネ事業者は、「国内では難しい」と、海外での事業に注力するしかないのか？

【変化2 - 3】課題1：日本の再エネの高コスト構造の早期是正

欧州と日本の太陽光発電コストの推移 [円/kWh]



○欧州や中国が先行。我が国の再エネ産業の競争力をどう強化するか？

【変化2-5】課題3：再エネの進展に応じた電力NWの構造改革



○大規模NWの再設計と分散NWへの投資をどう並行して進めるか？

④2050年以後、再エネでコスト的にも量的にも電力がまかなえるようになっても、原発は必要なのか？

何を判断基準に、どのようなプロセスで議論・判断していくのか？